

#37 最旬リノベーション事情②

これからリノベは “生き方を創る、リノベに。”



前回のgm誌(vol.54)では、リノベの最旬テーマの一つ「健康」についてお伝えしました。ご参考いただけたでしょうか。

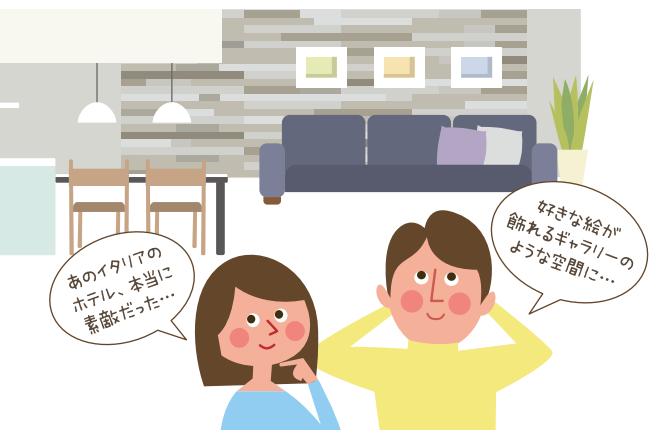
今号の『最旬リノベーション事情②』では、残りの2テーマ「快適・便利」「暮らし」にスポットを当て、

積水ハウス・住生活研究所の研究ノウハウをベースに具体的なアイデアや工夫のポイントをご紹介していきましょう。

「健康」「快適・便利」「暮らし」は、これからのリノベを考える上でしっかりと意識しておきたいテーマです。

ぜひ前号と合わせてご一読いただき、理想の暮らしを実現するリノベのヒントに出会ってください。

「快適・便利」はもちろん、「暮らし」にこだわりを。



いま、水まわり設備はこんなに進化している。

「快適・便利」で一番気になるのは、キッチンや浴室などの水まわり設備ですよね。実際に設備機器の進化は目ざましく、数年経つだけで機能が大きく変わっていることも稀ではありません。それではキッチン・浴室・洗面の最新機能や空間のポイントをご紹介していきましょう。

● キッチン

キッチンでは設備の刷新と一緒にオープンスタイルにレイアウト変更するケースも多く見られます。キッチンの向きを変えたり、吊り戸棚を取り払うだけでも開放感がぐんとアップ。とくに家族や友人と楽しくおしゃべりしながら料理したい、みんなでキッチンを囲みたいという場合におすすめです。

またコンロをIHクッキングヒーターにすると、IHクッキングヒーターをテーブルに組み込んだ「いろりダイニング」。

収納面では引出し収納が便利。重いフライパンや鍋も出し入れしやすく、ふだん使いの食器も引出しなら中身が見渡せるので準備も片付けもスムーズです。そして要チェックのが調理家電類の収納。多彩な家電を上手に活用するには、出し並べておけるようにしておくのがポイントです。思いのほか

場所を占めるので、余裕あるスペースを確保し、同時に「センサント」の増設も合わせて考えるようにしましょう。

● 浴室

浴室は1日の疲れをリフレッシュする大切な場所ですから、少し贅沢に考えても良いのではないかでしょうか。リラックス効果で大人気なのが、肩湯機能のある浴槽。湯船に浸かりながら首から肩へとお湯をまとうような心地よさが得られます。気泡による爽快な刺激が得られるジェットバスなども検討してみたい快適機能の一つです。

さらにリラックス感を高める雰囲気づくりもポイント。明るさや光の色をコントロールできたり、お気に入りの音楽を流せる浴室がおすすめ。バスタイムがいつそう豊かに

「快適・便利」は、リノベを行なう上であまりのテーマかもしれません。ただ、一般的に「快適・便利」と言われる間取りや設備でも、家族のライフスタイルによって暮らしさやすさは違ってくるものです。わが家でどのように過ごすか、どんな使い方をするかをイメージしながら、暮らしにぴったりのリノベ計画を考えることが大切です。

また「暮らし」は、本当に好きなものや心地よい雰囲気を追求するというテーマ。これまでさまざまな条件などで実現できなかつた「憧れの空間づくり」へのチャレンジです。旅先で出会った風景の再現や、大切に仕舞っていたコレクションのお披露目など、まずはこだわりを大きく膨らませることが第一歩になるでしょう。



調理家電を使いやすく省スペースで収納できる工夫が大切。



IHクッキングヒーターをテーブルに組み込んだ「いろりダイニング」。



ダクトのないカウンタータイプのレンジフードも登場。(IH専用、定期メンテナンスが必要)



ガスとIHの2つの熱源を使い分けられるタイプを選ぶのも一案。



▲心地よい肩湯が楽しめる浴槽で極上のバスタイムを演出。

◆シャワーパーの家族におすすめなのがオーバーヘッドシャワー。



暮らし心地の解決で収納問題のアップ。



あかりを落として音楽を流せば、上質なリラックスタイルに。

演出できます。

また最近の浴室は床の断熱性の向上などで冷んやり感が抑えられ、浴槽も保温性能の高いタイプがラインアップされています。入浴時間にズレがあっても湯温が下がりにくく、加えて湯量が節水できるなど、エコライフにも有効です。

●洗面

入浴前後の着替えをする洗面室も「快適・便利」リノベのポイントで、ぜひ採用したいのが小空間向けのエアコンです。脱衣時の暖かさや湯上りの涼しさは格別。温度変化による身体への負担も軽減でき、健康面でも安心です。

そして足元をオープンにしたカウンタータイプの洗面化粧台にすれば、座つてゆったりとメイクやスキンケアが行なえ、快適さがますますアップします。

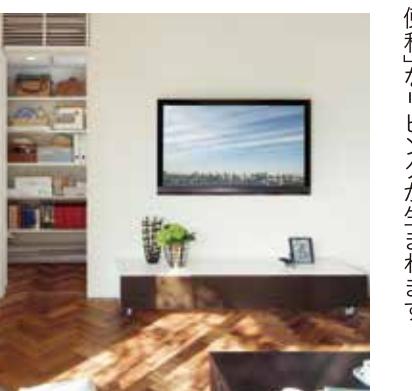


座れる洗面カウンターなら、メイクも落ち着いてゆったりと。

●リビング収納

最も散らかりやすいのはリビングでは? 家族と一緒に色々な物が集まつてくる、使うことが多いから近くに出しつぱなし、収納場所が決まっていないからそのまま…、といったことが起りがちです。

そんな問題を解決するのが、リビング脇に小さな納戸スペースを設けて内部に奥行きの浅いオープン棚を設置した「リビクロ（リビングクローケーク）」。掃除道具などの大物からスマホグッズやゲーム類アイロンやファイアル類などをまとめて納められ、サッと片付けやすくパッと取り出しあり、「快適・便利」なリビングが生まれます。



片付けやすく取り出しやすい「リビクロ」。LDKの広さを少し抑えてでも設けたい収納です。

●衣類収納

量が増えたり、好みが変わったり…。衣類収納の悩みを抱えているなら、ぜひ「シンクロ（寝室クローケーク）」を。ウォークインタイプで収納量もたっぷり確保でき、季節の衣類が見渡しやすく、寝室直結なので身支度も一箇所で整えやすくなります。



衣類や寝具がまとめて納められる「シンクロ」。

●玄関収納

片付けにくさでは玄関も強敵。傘や宅配用品、スポーツやアウトドアグッズなど、靴以外の収納がポイントです。ウォーターサイズの「シュークロ（シューズクローケーク）」を設ければ、扉を開めて上手な目隠しが可能。いつもすっきりと整えやすく、突然の来客時に慌てる…かもしれません。

すれば、落ち着いた大人インテリアに。ウッドデイナ家具や明るい色調の家具と組み合わせても、モダンな雰囲気にまとめられます。逆にビビッドな色にチャレンジするなら、部屋全体に使わずにアクセントウォールとして活かすのがおすすめ。空間にメリハリが生まれて、「暮らし」を印象づけられます。そしてアクセントウォールは壁の一部分だけなので、比較的イメージチエンジシやすいのも魅力。少し大胆な色柄を試してみたり、タイルやワッフルパネルなどで素材の変化を楽しんでみるのも素敵です。

また壁をリフレッシュする際に、同時に考えたいのがディスプレイです。オープンな飾り棚に、壁一面を飾る大型アートなど、逆にビビッドな色にチャレンジするなら、部屋全体に使わずにアクセントウォールとして活かすのが最も効果的です。色や柄にこだわったり、素材や質感の違いをアクセントとして活かしてみるのも良いでしょう。

壁のリフレッシュで 暮らしの空間づくりを。

空間をイメージチエンジして「暮らし」のある住まいを目指すなら、壁の雰囲気を変えるのが最も効果的です。色や柄にこだわったり、素材や質感の違いをアクセントとして活かしてみるのも良いでしょう。

●玄関収納



玄関をすっきりと整えておきやすい「シュークロ」。



シックなグリーンの壁がソファとのコントラストを生み、空間全体を引き締めています。

さらにマンションでは、階下への音の響きも要注意。床の材質によっては音が伝わりやすく、思わぬトラブルを引き起こすケースも少なくありません。遮音性などの性能面の吟味も重要です。



木目にバラツキ感がある床板も魅力的。

手触りが心地いいと
フロアライフも快適。

使わなくなつた和室を わが家自慢のスペースに。

子育ての時期には大活躍だった和室も年々使わなくなってきた…。そんな家庭も多いのではないかでしょうか。和室を取り払つてリビングを大きく広げるという方案ですが、こだわりのプラスα空間にリノベするという活かし方も魅力的です。

たとえば、趣味スペースやワーキング、夫婦でお酒を楽しむミニラウンジや家族共用のライブラリースペースにするというアイデアはいかがでしょうか。リビングと完全に仕切つてしまわずに半独立型のスペースにしておけば、空間全体の広がり感もアップ。ゆったりとしたリビングの中に、わが

床の人気は質感重視、 だけど性能面も忘れずに。

り棚を設けて少しづつ集めてきたアート作品や思い出の家族写真、旅先で出会った雑貨などをお披露目すれば、本当に「私らしい」インテリアが完成。季節や気分に合わせてディスプレイを変える楽しみも生まれます。



ライトトーンの床で爽やかな雰囲気に。



ダークトーンの床で落ち着いた印象に。



素材感のあるシックなタイル壁をアクセントに。空間が上質な雰囲気にまとまります。



ディスプレイするもので空間の雰囲気を変えられるので、インテリアの楽しみも膨らみます。



個性的な色はアクセントウォールとして活かすことで空間のデザイン性がアップします。

替えは工事の規模も大きくなりますので、慎重な検討が必要と言えるでしょう。

床選びでまずポイントになるのが、色の濃淡です。一般的にライトトーンなら爽やかで広がりのあるイメージが生まれ、ダークトーンなら落ち着いた重厚な雰囲気が演出できます。インテリア全体を大きく左右するので、壁や家具などとのトータルコーディネーションが大切になります。

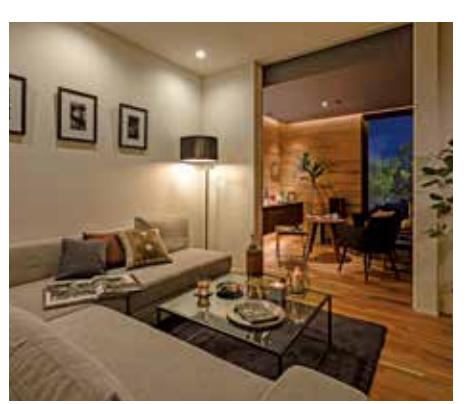
また最近は、無垢材やノーワックスの床板など、ナチュラルな素材感に富んだタイプが人気。確かに手触りも豊かで、素足で過ごしているときも心地よいのですが、水染みや汚れが付くと落としにくいというデメリットもあります。質感とメンテナンス性のバランスを十分に考えて選ぶようにしましょう。

さらにマンションでは、階下への音の響きも要注意。床の材質によっては音が伝わりやすく、思わぬトラブルを引き起こすケースも少なくありません。遮音性などの性能面の吟味も重要です。

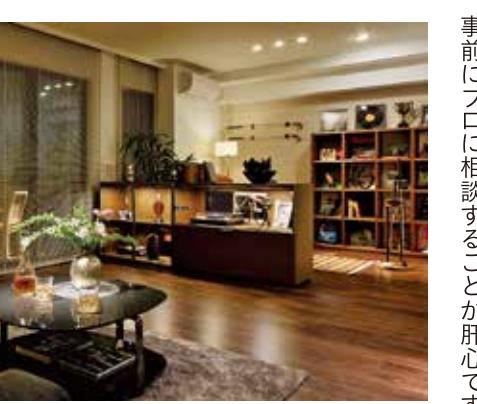


木目にバラツキ感がある床板も魅力的。

手触りが心地いいと
フロアライフも快適。



リビングの奥に設けた家飲み空間。インテリアにもこだわってリビングとは違った雰囲気でくつろげます。



腰高の収納で程よく仕切った趣味スペース。お気に入りのものに囲まれる心地よさが満喫できます。